

14	お名前 植村 敏子	性別 女性	満年齢 85歳	終戦時の年齢 19歳	現住所 富岡中部
----	--------------	----------	------------	---------------	-------------

① 8月15日は、どこでどんなことをしていましたか。

名古屋の港区稲永新田にある愛知航空機の工場で、海軍戦闘機の製造に携わっていました。

② 終戦のことを、どこで、どのように聞かれましたか。

工場の広場に整列し、玉音放送を聞きました。

③ 敗戦を知らされた時の気持ちやその時の様子

戦況が不利なことは分かっていたので、一億玉砕の覚悟でした。放送は、雑音が多く、はっきりしなかったのですが、「最後までがんばれ」という励ましの言葉ではなかったようで、「無条件降伏」と知った時は、ただぼう然、死のうと思いました。

④ 体験の中で、子どもたちに語り伝えておきたいこと

「教育のおそろしさ ～ 国家なくして個人なし」

父が職業軍人だったこともあり、私は北朝鮮で生まれ、日本の各地を転々とし、韓国光州の女学校を卒業しました。そのためか、筋金入りの軍国少女だった私は、天皇を神と信じ、国のため、天皇陛下の御為なら、いつでも命を捧げる覚悟でした。

太平洋戦争が始まり、初めのうちこそ日本軍は戦果をあげていましたが、次第に戦局は不利となり、男だったら少年航空兵*1に応募して、敵へ突っ込んでやるのに、と本当に口惜しく思いました。人手が足りず、学徒動員*2が命じられ、私たちは学業をすてて軍需工場へおもむき、一生けん命働きました。

日本国土へのB29の空襲が始まり、各都市が次々に攻撃されて、焦土となりました。名古屋も連日連夜空襲を受けるようになり、わが家も近くに落ちた爆弾で半壊し、引っ越した家では焼夷弾の雨を浴びました。真っ黒な夜空に、B29の翼が真っ赤にそまって、次々に飛んでゆくのを仰いだのが、いまだに目に焼きついています。

*1 1933年（昭和8年）に制定され、当初は約30倍の競争率だった。1937年（昭和12年）になり、受験資格が17歳から引き下げられ、操縦生徒・技術生徒とも、年齢が満15～17歳となった。

*2 1943年（昭和18年）6月、戦力増強のための本格的な軍需工場への動員と軍事訓練の徹底が決定された。1944年（昭和19年）3月には、中等学校以上の生徒は男女を問わず工場に配置されることになり、1945年（昭和20年）3月には、国民学校初等科を除いて、1年間授業が停止され、学徒は軍需生産、食糧増産などに動員された。その数は1945年7月には340万人となり、危機にあった軍需産業の支えとなった。

工場が空襲を受け*1, 防空壕に避難するためにあぜ道を歩いている途中, 艦載機の機銃掃射*2 で襲われました。あわてて身をすくめましたが, 「ダ, ダ, ダ, ダ…」と体のすぐ横を弾丸が通りました。「一瞬, やられた。」と思いました。その時は, さすがに怖く, 死ぬかと思いました。

敗戦後, 私は工場の人に頼んで青酸カリをもらい, 本気で死のうと思いました。母親にそのことを話しても, 止められることはありませんでした。後で聞くと, 母も死ぬつもりでいたと言いました。無条件降伏が信じられなくて, 三日三晩泣き明かしました。国が滅びるなら, 自分も生きてはいられない。「天皇のために命を捧げるのが当たり前, たとえ火の中, 水の中, 天皇陛下の御為に」と教えられてきたからです。事実, 皇居の前で自決した人もいました。

いろいろな戦争の事実が明らかにされるにつけ, なんと無謀な戦をしたものかと思うようになりました。軍国教育の恐ろしさを痛感させられたのです。「天皇陛下バンザイ」と叫びながら, 命を捧げた多くの人々, それが当たり前とされた日本の軍事教育, こんなことって許されることでしょうか。それが, どんなに恐ろしいことで, あってはならないことなのか, その当時は気づくすべもなかったのです。今は, 天皇の戦争戦争を痛切に感じるようになっていきます。

※ 当時は, 天皇を中心とした国家主義を, 国民は徹底的に植え付けられた。兵士として出征することはこの上ない名誉なこととされ, 国のために死ぬことが誇りと教えられた。学校には奉安殿が設けられ, 教室には皇居の写りがかざられた。軍事教練もきびしく, 教科書も戦争をたたえる内容ばかりだった。

奉安殿
(写真…富岡小アルバムより)



富岡小の奉安殿

1930年(昭和5年)
7月に造営された。

中には, 天皇・皇后
両陛下の御真影が納め
られていた。児童は校門
を入ると, この奉安殿に
向かって拝礼をした後で
教室に入った。

- *1 1943年(昭和18年), 航空機増産のため愛知航空機が設立され, 海軍用の戦闘機を生産した。軍需工場は爆撃の標的となり, 1945年(昭和20年)6月9日, 熱田区の船方工場がB29の爆撃により10分ほどで壊滅し, 死者は1,145名にのぼった。植村さんの工場は, 幸い大きな被害はなかった。
- *2 機関銃で敵をなぎ払うように射撃すること。攻撃目標は燃料タンクや製油所などが主だったが, 電車や人に対する攻撃も行われた。民間人に対しても無差別に行われ, 被害は大きかった。